

第33回人流データ利活用研究会 議事概要

1. 日時 2024年5月29日(水) 15:00~17:00
2. 場所 総務省第二庁舎408室
3. 議事内容
 - (1) 観光データに関する意見交換
 - JTB霞が関事業部より同社が所有する下記3つのプラットフォームについての説明が行われた。霞が関事業部は中央省庁及び所轄法人へのサービスに特化した事業を展開している
 - 「観光予報プラットフォーム」
 - (公社)日本観光振興協会が所有。JTBは観光予報プラットフォーム推進協議会を運営
 - 市区町村単位・1日単位のデータを提供、更新は二週間に1回
 - 基礎データとして宿泊(約50億泊)、人流(2,500万人)、消費(200万店舗)を保有
 - 「需要予測」として、6か月先までの宿泊動向をデータで表示可能
 - 基本登録と利用は無料、レポート作成など一部機能は有料
 - 「宿泊データ分析システム」
 - 宿泊施設や観光事業者が保有する来客(宿泊)データを収集し、匿名加工した上で集計や可視化等の分析機能を提供するシステム。地域に特化した独自機能の開発と分析を可能にする
 - 利用者は自施設のデータの詳細を知ることができ、集計加工された他地域のデータについても分析が可能である2024年4月現在、21地域で39の機能が実働
 - 例えば、産業連関表を用いて経済波及効果を検証、分析したもの(下呂温泉)や、チェックイン登録をシステム化しデータ収集を自動化した取り組み(与論島など)がある
 - 「観光予報DS(Data Science)」
 - 「観光」ビッグデータを、主に中学、高校でのSTEAM学習に活用するプログラム
 - 「観光予報プラットフォーム」のデータを中心にRESAS、e-Stat、気象庁のデータが集積されている
 - これまでに104校、約15,000人の利用実績
 - (2) 人流メッシュデータを用いたバス輸送効率性評価方式
 - 横浜市営バスの40個の路線における評価値の計算結果に関して報告した
 - 損益分岐点人数の算出方法と32系統の算出結果に関して報告した
 - 2024.9に開催される統計関連学会連合大会に当テーマをエントリーする予定である
 - (3) 公共交通アクセスビリティ指標の分析
 - 国勢調査メッシュを用いた公共交通アクセスビリティ指標(SDG11.2.1)の計算方式と、神奈川県での計算結果に関して報告した
 - (4) その他
 - MESHSTATS上に、年月や性別年齢などを指定してモバイル空間統計データを抽出できるAPIを搭載したことを報告した
 - 次回の研究会は7/24(水)15:00~17:00と設定した

以上